

自然・環境グループ

自然・環境グループの質問を始めます。

私たちのグループは環境問題、CO₂の削減や農作物被害について話し合いました。

このことについて3つの質問をしたいと思います。

質問1 「環境問題への理解と食品ロスの削減」について

1つ目の質問は、「環境問題への理解と食品ロスの削減」についてです。

先日、見ていたテレビ番組で、「環境問題は皆で協力することで解決する」と述べていました。私も「住民一人一人が身近な環境問題に関心を持つこと」で状況は変わっていくと思います。

そこで1つ目の提案です。環境問題について知り、私たちにできる取組について考えることができるよう環境に関するイベントが見れたり、環境問題の現状やその解決策などを知ることができるウェブサイトを作成してはどうでしょうか。

ウェブサイトを通じて、みんなが環境問題をよく知り、具体的な行動に取り組むことができるようになると思います。

次に、すぐに取り組める身近な環境問題に食品ロスがあります。食品ロスを調べてみると、家庭から247万トン、食品関連事業者から275万トン、合計522万トンも発生しています。このため、家庭も事業者も意識して、全体で食品ロスの削減に取り組むことが重要です。

私の家庭でも、食べ物を放置して賞味期限が切れてそのまま捨ててしまうことがあり、もったいないと思いました。一方で、テレビで食事がちゃんと取れていない人がいることも知りました。たくさんの食べ物が捨てられてしまう、この問題についてもみんなに知ってもらい、行動することが大切だと思います。

そこで2つ目の提案です。買い物に行く前に買う物を決めたり、適量を買って食べることなど食品ロスの削減について、インターネットやポスターなどで情報発信して、みんなに知ってもらうのはどうでしょうか。

私も買い物をするときには、いらぬものを買わないように取り組んでいきたいと思っています。

みんなで協力して、食品ロスを減らしていきましょう。

答弁（環境県民局長）

広島県では、県内の企業や広島県環境保健協会など地域で環境活動に取り組む団体と協力して、瀬戸内海の海岸の清掃活動のほか、「環境の日」ひろしま大会などのイベントを実施し、限りある資源や貴重なエネルギーを大切に使う環境に配慮した過ごし方や、自然の大切さについて県民の皆様に関心を持ってもらえるよう、環境問題の解決に向けた取組を紹介しているところです。

そのほか、令和3年度からは、小・中・高校生の皆さんが楽しみながら環境問題に対する理解を深めてもらえるよう、希望する学校と協力して、SDGsに関するカードゲームを使った環境学習を始めており、参加いただいた児童・生徒の皆さんや先生方から好評をいただいています。

また、令和元年度の子供議会での提案をきっかけに「ポイントが付くペットボトル回収機」を設置して、皆さんの具体的な行動につながる取組を行っています。

こうした取組やイベントの様子は、本県の環境に関する情報、様々な環境活動を行う団体の情報などとともに、県のウェブサイト「ECOひろしま」を通じて紹介しているところですが、より多くの県民の皆様に関心を持っていく必要があると考えています。

このため、今後、皆さんをはじめ、広く児童生徒の皆さんに分かりやすいコーナーなども充実し、SNSでも発信していきますので、周りの友達やご家族にもぜひ紹介してください。

環境問題について、一人一人が関心をもって具体的に行動する「環境に優しい広島県」を一緒に作っていきましょう。

次に、二つ目の提案の食品ロスの削減についてお答えします。

まだ食べられるのに捨てられる食品、いわゆる「食品ロス」の量は、令和2年度に、県内で、生産から販売までの各事業者から出るごみとして約3万トン、家庭から出るごみとして約3万トン合わせて約6万トンと推計しており、これは、マツダスタジアムの約2.5杯分に相当します。

こうした食品ロスを削減するためには、事業者、消費者などがそれぞれの立場で、この問題を「他人事」ではなく「自分事」として捉え、行動に移すことが大切です。

こうした考えのもと、県では、事業者については、食品の使い切りや食べ切りを行う飲食店やスーパーなどを、協力店としてPRする市町を支援するほか、農家の方に

対して、大きすぎたり、形が悪くてスーパー等で販売できない農産物などを加工食品に活用したり、フードバンクへ提供するよう働きかけるなどの取組を行っています。

また、家庭への啓発として、買い物前の在庫や賞味期限の確認、食品の保存や調理の工夫などについて、県のSNSや情報誌等で発信してきておりますが、さらに削減に向けた行動につなげていく必要があると考えています。

そこで、皆さんにも、家族みんなで今日から実践してもらいたいコツ「3つのない」を紹介します。1つめは、「買いすぎない」。使い切れる分だけ、そして賞味期限の間近なものから買う、いわゆる「てまえどり」、2つめは、「作りすぎない」。家族の予定や体調などを考えて料理し、残ったら他の料理にリメイクする。3つめは、「食べ残さない」。作った料理は早めに美味しく食べきるというちょっとした行動です。

県としましては、こうした日々の生活の中で行動できる工夫を、多くの県民の皆様にはツイッターやフェイスブックなどでわかりやすく発信するとともに、先進的で有効な事例などの情報を提供することで、事業者・消費者などが行動につなげられるよう食品ロスの削減に取り組んでいきます。

質問2 「CO₂の削減」について

(1) 「電気自動車の普及」について

2つ目の質問は、「CO₂の削減」についてです。

まずは、「電気自動車の普及」についてです。

現在、CO₂は私たちの生活からたくさん出ています。CO₂が増えると、地球の平均気温が上昇し、異常気象など様々な悪影響があります。

そこで、日常生活でCO₂を減らすことが大切だと思います。自動車は生活に欠かせない交通手段ですが、ガソリンやディーゼル車は、多くのCO₂を排出します。

そこで提案です。無料で利用できる電気自動車の充電スタンドを増やして、走行中にCO₂が排出されない電気自動車に乗り換えてもらえるようにしてはどうでしょうか。そうすることで、みんなが電気自動車を使ってくれるようになると思います。

(2) 「木材の再利用」について

次に、「木材の再利用」についてです。

日常生活でCO₂を減らすことに加えて、森林がCO₂を吸収することでCO₂を減らすことができると思います。そこで、私は、CO₂を吸収する森林について、広島県の

状況を調べてみました。

広島県の面積85万ヘクタールのうち、約7割の61万ヘクタールが森林です。その森林の3割近くが、スギ・ヒノキなどの人工林ですが、手入れがされていない森林も多くなっているそうです。また、木によっては、年をとるとだんだんCO₂の吸収量が少なくなるそうです。

そこで提案です。年をとった木を伐採して植林する、伐採した木はチップにして、ガーデニング用やバイオマス燃料として活用してはどうでしょうか。

そうすることで、木材の再利用とCO₂を吸収する森林が再生されると思います。

このような取組を進めることでCO₂が少しずつでも削減できれば、温室効果ガスが減って、きれいな星がたくさん見える住みやすい広島県になればうれしいです。

答弁（環境県民局長）

（1）「電気自動車の普及」について

広島県内の電気自動車は、令和3年3月末の時点で1、851台が登録されており、5年前と比べると2倍に増えていますが、県内の自家用車全体に占める割合は0.1%と非常に低くなっています。電気自動車が1回の充電で走れる距離は、180kmから450km程度と、ガソリン車に比べると半分ぐらいで、電気自動車を普及していくためには、充電スタンドが増えていくことが大切と考えています。

広島県内には、現在約300か所の充電スタンドが設置されていますが、この中で、誰もが無料で利用できる施設は、道の駅や自動車販売店などの一部にとどまっており、その割合は1割程度となっています。

国においては、電気自動車を増やしていくため、2030年までに全国の充電スタンドを15万基に増やし、電気自動車をガソリン車と同じくらい便利に使えるようにすることを目指して、充電スタンドを設置する人に対して、その費用の2分の1から3分の2を補助するなどしています。

充電スタンドの設置には費用がかかることや、充電に必要な電気の料金負担もあることから、誰もが無料で利用できる充電スタンドを増やしていくことは簡単ではありませんが、たくさんの方が集まるショッピングセンターなどの便利で使いやすい場所に充電スタンドが増えて、誰もが電気自動車を利用しやすくなるよう、国や関係する皆さんと協力して取り組んでいきます。

なお、県では、民間企業と連携して、県立産業会館に、車庫の屋根に置いた太陽光

パネルで発電した電気を使う充電スタンドを設置して、近くの会社や県民のみなさんが電気自動車を共同で利用する世界初のEVシェアリングステーションの実証実験を行っています。みなさんも、ご家族と一緒にぜひ利用してみてください。

(2) 木材の再利用について

森林には、太陽からの光エネルギーを利用して、大気中の二酸化炭素を、樹木の体内に吸収・固定するという重要な働きがあることから、森林の手入れを行い、木の成長を促進させることで二酸化炭素の吸収量をより多く増やしていくことに繋がるものと考えています。

このため、全国で10番目の森林面積を有する広島県では、「伐って、使って、植える」をキャッチフレーズに、利用する時期を迎えた約5百ヘクタールのスギやヒノキの人工林を計画的に伐採し、そこから生産された40万立方メートルの木材を8千戸の住宅の柱や壁などに使い、伐採した後は、便利の悪い奥山は天然林に戻し条件の良い約3百ヘクタールの山にきちんと苗を植えて育てるよう支援を行っているところです。

また、伐った木を無駄なく使うことにより、手入れに必要な費用が確保され、次のサイクルに繋がることから、住宅や家具などのメーカーに木材をたくさん使ってもらうことや、寸法が足りなかったり曲がっている木材についても、発電の燃料などに、有効利用してもらうことが大切だと考えています。

現在、伐った木の使い道は決まっていますが、ご提案のあった伐採した木をチップにして、ガーデニング用やバイオマス燃料として活用することは、使い道が無くて山に残されている端切れなども有効利用することで、森の資源のサイクルがさらに大きくなっていくことから、県としましても、家庭や発電用で木材をもっと使っていただけるよう、県民の皆様に向けて、木を使うことが環境に貢献することなどを積極的にPRしていきます。

皆さんも、緑の少年団などが行う植林活動や、木育イベントでの木工教室などにも是非参加していただき、森の大切さや木に触れる喜びを感じてみてください。

質問3 「鳥獣による農作物被害の防止」について

3つ目の質問は、「鳥獣による農作物被害の防止」についてです。

今、シカやイノシシなどが農作物を荒らす被害が起きています。しかし、こうした

鳥獣は好きで山から下りてきているわけではありません。人里と動物が住んでいる山との境界が無くなってきているのが原因なのです。

人は農作物を鳥獣被害から守るために、侵入防止の柵の設置などの対策を取られていますが、鳥獣を捕獲する数は増加傾向にあります。

そこで提案です。鳥獣を捕獲せずに農作物の被害をなくすための取組を強化してはいかがでしょうか。

例えば、北海道や軽井沢では、訓練された犬がクマを追い払うベアドッグがあります。噛んだりせずに、クマを追い払うので、クマも傷つきません。このような犬を訓練し活用することで、さらに農作物を鳥獣被害から守ることができます。そうすれば、人と動物が安心して共存できる、自然に優しい広島県が実現すると思います。

答弁（農林水産局長）

農作物が被害にあう一番の原因は、集落や農地が野生生物にとって安全な餌場として、人間が認識させてしまったことであり、鳥獣に対して集落などが近寄りにくい環境であることを学習させなければ、被害は改善に向かわないと考えています。

このため、農作物を鳥獣の被害から守るには、集落のみんなで農作物を守り続ける体制を作ること、鳥獣が近づきにくい環境を維持すること、柵などで守ること、やむを得ない場合には捕獲をすること、この順番で対策を進めることが何よりも重要です。

最初の体制づくりでは、住民が集落の現状をきちんと理解し、高齢化や人口減少が進む中でも、将来の被害ゼロという目指す姿に向けて、住民全員で話し合い、協力しながら対策を実行していくことが大切です。

次の、近づきにくい環境づくりでは、鳥獣にとっての餌場と隠れる場所をなくすことが肝心なので、誰も収穫していない柿の木を切ったり竹林や藪などを伐採して見通しを良くするなど、鳥獣の住む里山と人の暮らす集落との境界をはっきりさせ維持していく必要があります。

また、柵などで守ることは、鳥獣の侵入防止に有効な手段ですが、実際には、きちんと農地を囲い切れていなかったり、イノシシの高さに合わせて設置したためシカの侵入を許してしまう失敗などもあることから、正しく設置して、正しく管理していくよう、小まめに点検しなければいけません。

こうした対策を重ねても、人里に降りることに慣れてしまい、集落の餌場を学習した鳥獣の中には、侵入をあきらめない個体がいるため、猟師さんへお願いして捕獲す

る取組も行っています。

野生のクマの保護を目的として、特別な訓練を受けた犬が、大きな声で吠え立ててクマを森の奥に追い返す取組もありますが、専門の種類犬を繁殖させたり、子犬から長期間訓練することは、県内の広い田畑を守る上で簡単なことではないため、犬などの動物に頼るよりも、すぐ側で生活している住民が主役になって、対策を進めることが最も効果的であると思います。

このため、県内全域において、集落ぐるみでの環境改善と侵入防止の取組が広まり、鳥獣の捕獲に頼らなくても済むよう、集落に身近な市町の役場の方々と連携しながら取り組んでいきます。